

わたしたちにもできる
生物多様性保全

名島海岸清掃活動を事例に



生物多様性保全って
どういう
意味なんだろう？

【生物多様性保全】

生物の多様性とは、様々な生態系が存在すること並びに、生物の種類及び種内に様々な差異が存在することをいい、その多様性を将来に渡って維持管理していくこと。

なんだか
難しそう
そんなこと
ないさ
名島海岸の
清掃も
こんなことが
きっかけで
始まったんだよ

一わたくしにもできる生物多様性保全

地域連携活動のススメ

名島海岸は、
多々良川河口にある
西に面した海岸だよ。

渡り鳥たちは
季節によって採餌場所を
かえることがわかっていて、
中でもハマシギは、春には
あの広い和自海岸よりも
この名島海岸で
多く見られるんだ。

海岸には
雨の日や強い西風が吹いた後、
ペットボトルなどのゴミや
アオサなどの自然由来のものが
たくさん打ち上げられるんだ。
そのアオサの中には
生きものがたくさん
棲んでるって知ってた？



アオサの中には
小さな生きものが
たくさん付着してる！



そして、
アオサなどの海藻に
付着した生きものは、
春と秋、それと冬に
日本へやってくる
鳥たちにとって
大切な餌に
なっているんだよ。



でも、
今迄これらのアオサは
他のゴミと一緒に
大きな清掃車で全部
除去されてきたんだ。



※アオサは増殖しすぎると悪臭の原因になることがあるので、燃やされることも多いのだ

アオサって
全部捨てる
必要は
ないんじゃないかなあ

そうなんだ！
でも、そのためには
地域の人たちや
行政の理解と協力が
不可欠なんだよ。

だから
思い切って
相談したんだ

とはいえ、これまでアオサは悪モノ。
反対されるかと思いきや...

昔は海岸に
ゴミなんて
なかった
よなあ！

鳥たちのためにも
みんな
みんまで
清掃しようか！

地域の美化と
生物多様性保全の
効果が期待できる
んですか！

いいでしょう！
渡り鳥がくる
4月と5月に
試してみよう！

こうして、
まずは4月と5月の
2ヶ月間だけ、
大型清掃車を
できる限り使わない
人の手による清掃活動
地域の人々と
行うことになったんだ。

少量のアオサを残して、
ペットボトルなどのゴミだけ
自分たちの手で拾っていく

すると...

満潮の時でも
餌が食べられる
ようになった
おかげで、
たくさん
鳥たちが
来てくれたよ！



名島海岸で 見られた鳥たち



アオサの中にいた 生きものたち

2ヶ月間で、
合計21種の
シギ・チドリ類が
きたんだよ

今迄は行政に
任せきり
だったけんなあ
こんな簡単なことで
保全活動できるなんて
知らなかったばい

よし！
これからは
自分たちの手で
名島海岸を
清掃するばい！

こうして
始まった活動が
今でも2回の
ペースで
続けられて
いるんだよ。

私も
何か始めて
みる！



博多湾東部の多々良川河口には、かつて「名島潟」と呼ばれる大きな河口・前浜干潟が広がっていました。一九七〇年代以前、河口の干潟ではアカガイやマテガイ、アサリ、カブトガニ、イイダコ、クルマエビなどが採れた豊かな干潟であったことが地域のの人々から語られます。

残念ながら名島潟のほとんどは姿を消してしまいましたが、多々良川河口の右岸に残る名島海岸は、わずか2ヘクタールの小さな干潟ながらも、かつての名島潟の姿を今にとどめる貴重な干潟です。

海岸に漂着する海藻を、名島海岸の生物多様性の保全、改善に貢献できる形で管理する方法を、行政、地域、そしてNPOと一緒に考えて考え、試行錯誤してやることとが今、求められています。

今回、こうした取組の一步として、地域とNPOで人の手による海岸の漂着海藻の清掃を行いました。

名島海岸に漂着したゴミたち

中国からの漂着物
→ 中国からの漂着物

韓国から流れてきたペットボトル
→ 韓国から流れてきたペットボトル

バナナ皮
→ バナナ皮

釣りゴミも後を絶たない
→ 釣りゴミも後を絶たない

スプレー缶などの一般ゴミたち
→ スプレー缶などの一般ゴミたち



清掃活動に参加して下さった地域の方々からこんな感想頂きました！

また、一人では掃除をしたいと思ってもなかなかできないが、参加者たちとお互い励まし合いながらやることで、頑張っていることが出来た。こうした取り組みは良いことだから、ぜひ続けたい。

■わかってはいたことだけど、海から流れてくる漂着ゴミが多くて、水に浮きやすい発泡スチロールやビニール、ペットボトルといったゴミが多かった。普段から地域の人たちも名島海岸の掃除をしないといけないなあと思っていて、けど、思うだけで済んでしまっていて、年に数回の町内清掃の時にするだけだった。今回のように、鳥を守るためにというハッキリした目的があって、期間も2ヶ月と決まっていたので参加してみようという気持ちになった。清掃していたら近くで鳥が餌を食べていたりしてやりがいを感じることができた。

清掃活動 体験談



清掃に参加して下さった名島海岸(柳井地区)の皆さん

■今までは海岸にゴミが多く散らかっていても、区役所などに電話するだけだったが、自分たちの手で掃除をすることで色々な発見があった。鳥の気持ちになって海岸をきれいにしてやらないといけないと思えた。そして、今までは名島に住んでいても、海岸にこんなにたくさん鳥がいるなんて知らなくて、渡り鳥という、もっと大きな鳥だと思っていたが、ハマシギみたいにこんなに小さな鳥がアラスカまで飛んでいくという話を聞いて驚いた。今回の清掃に参加して、鳥に関心を持つようになった。

これからも一人一人が支え合いながら清掃を続け、もっと参加する人が増えていくといい。



NPO 法人「ふくおか湿地保全研究会」は、福岡市周辺の環境・野生生物調査を行い、その調査結果をもとに環境保全活動を行っているグループです。開発などにより失われてきた自然を補っていくための方策を、市民の皆さんと共に考え、行動していきたいと思っています。詳しくはHPをご覧ください。一緒に活動して下さる方を待っています。あなたも参加してみませんか？



Click!



NPO 法人 ふくおか湿地保全研究会
 〒813-0044 福岡県福岡市東区千早 1-6-14
 URL <http://wetland-research.org>

2013 福岡市環境市民ファンド助成
 エコ発する事業の補助を受けて作成しています

■このパンフレットの一部分、または全てを著作権を超える形で断り無く複製・掲載・転載することを禁じます。